

## 子孫が書き残した調査記録 ～権藤家資料～

会期：令和6年11月30日(土)～12月27日(金)

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

令和5年3月31日付けで本市が寄贈を受けた権藤家資料(A2022-015)のうち、近代文書を初公開します。権藤家は、江戸時代、竹野郡下古賀村(現・久留米市田主丸町船越の一部)・菅村(現・うきは市吉井町生葉の一部)両村の庄屋職及び久留米藩の下見役を代々務めました。下見役とは、藩内における用水の管理・営繕、開拓地などの調査、農作物の生育状況や出来具合の調査を行う人のことで、農民の生活に深く関係していました。

今回は、12代弥六郎(1869～?)が記した、権藤家の人々の経歴をまとめた記録類及び下見役の役割に関する原稿を紹介します。

### ●No.1 権藤家略譜

権藤弥六郎(明治～大正時代)

初代権藤隼人正長常ごんどうはやとのかみから7代與兵衛常静までの経歴と系図を記したものです。展示箇所は2代九郎左衛門尉常重の経歴です。父・長常から土地を分与されて坂井村(現・田主丸町長栖の一部)から下古賀村に住し、後に菅村に移ったとあります。右ページには、下古賀村周辺の地図が手書きされています。

### ●No.2 永禄以降権藤家年代記

権藤弥六郎(明治～大正時代)

永禄7年(1564)から天保6年(1835)までの年代記で、権藤家の人々が関わった出来事がまとめられています。展示箇所の記述は、7代與兵衛常静やましおの代おすくいまいの出来事です。享保5年(1720)6月21日の山汐(土石流)発生に際し、久留米藩から、被災地の住民に対して「御救米」を一人一合ずつ配給するよう仰せつかったとあります。

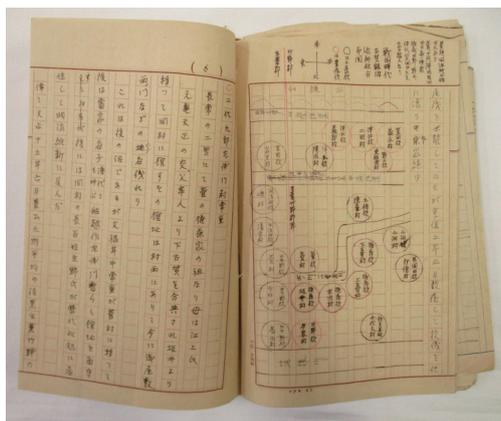
けみかたしたやく

### ●No.3 検見方下役の来歴

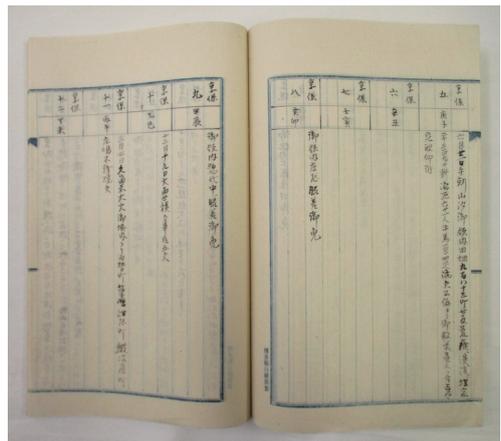
権藤弥六郎(昭和戦前期か)

久留米藩における下見役の創設経緯、定員、職能などを記したものです。記述によると、久留米藩の下見役は、藩内における村民間の権力争いの対策として、土着の権力者を折衝業務にあたらせようとしたのが始まりといえます。正徳2年(1712)、藩内から25名がばってき抜擢され、農作物の生育状況視察や、開拓地・荒地の調査などにあたりました。

No.1



No.2



No.3

